

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI/BEI対応) 使用評価ソフト: CASBEE-NCB_2010bpi&bei(v.2.11)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)平塚新町物流センター-新築工事	階数	地上4F
建設地	平塚市新町62-2 外7筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域,工業地域,法22条区域	平均居住人員	200 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年4月 予定	評価の実施日	2015年2月16日
敷地面積	14,676 m ²	作成者	コンストラクショナルマネジメントジャパン株式会社
建築面積	7,407 m ²	確認日	2015年2月16日
延床面積	29,123 m ²	確認者	コンストラクショナルマネジメントジャパン株式会社

外観/バース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	<p>入居企業が特定されていない中で、広範囲なテナントに提供可能なように汎用性の高い建物を提供する。 入居企業が安全かつ効率的に庫内運営及び輸配送が行うことが出来る施設をローコストで提供する。</p>	<p>その他 将来的に屋根に太陽光発電設備の設置が可能ないように、積載荷重を見込んで構造計画を行った。</p>
Q1 室内環境	<p>倉庫とはいえ、壁にALC板、屋根を断熱2重折板とし断熱性に配慮した。空調は行わないが、将来において空調設備設置を対応可能としておく。倉庫の事務室であって、一般的なオフィスビル等と同等の執務空間とする。</p>	<p>Q2 サービス性能 将来において事務室の増設や倉庫への空調機設置などに対応できるよう、将来用配管スリーブや搬出入口の確保を確保している。 床荷重設定も14,800N/m²としている。</p>
LR1 エネルギー	<p>事務室廻りの壁・天井に断熱材を施し、熱負荷を抑えた。倉庫外壁も鉄板だけではなく、ALC板にすることにより断熱性及び防音性に優れ、室内・室外の環境に配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 建設工事で使用する材料の種類が限られており、リサイクル材などを利用するのが難しいが、再生砕石など出来るだけ再生材の利用を図る。</p>
		<p>Q3 室外環境(敷地内) 構内道路として舗装が必要な範囲外は、緑地とし植栽を施している。</p>
		<p>LR3 敷地外環境 敷地周囲に緑地を配し、周辺環境へ配慮した。敷地の南側に寄せて建物を建設することにより、北側への日影の影響を小さくした。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される